
マルゼン 油圧パワーユニット

U-070-3-POD型

取扱説明書



注意

当製品を安全に、また正しくお使いいただくために、ご使用前に必ず本取扱説明書をお読みください。
誤った使い方をすると事故を引き起こすおそれがあります。
お読みになった後も必ず製品の近くに保管してください。

丸善工業株式会社

はじめに

この度は、マルゼン油圧パワーユニット U-070-3-POD 型をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は、安全かつ能率的なご使用をいただくための手引きとして、取扱い方法・使用上の注意事項及び点検整備方法について特に注意すべき事項を説明しております。ご使用前には必ず、この取扱説明書を熟知するまでお読みのうえ、正しい取扱いをして、最良の状態で安全な使用方法で操作してください。

本書に従わなかった場合、重大な事故に結びつくことがあります。

この取扱説明書は、機械の付近に保管し、機械を扱う全ての方が定期的に見るようにしてください。紛失または汚損された時は、速やかに当社または当社の販売店にご注文ください。

又、製品を貸与または譲渡される場合は、本取扱説明書を製品に添付して、熟読する様にお伝えください。なお、ご不明なことや、お気付きのことごございましたら、当社または当社販売店までご連絡ください。なお、部品交換の際には必ず純正部品をご使用くださるようお願い致します。

純正部品でないものをご使用になると機械の性能、耐久性などを著しく低下させる危険性がありますのでご注意願います。

⚠印付きの下記マークは、安全上、特に重要な項目ですので必ずお守りください。



危険 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



警告 その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。



注意 その警告文に従わなかった場合、ケガを負うおそれのあるもの、または物的損害が生じるおそれがあるものを示します。

あらゆる環境下に於ける運転・点検・整備の全ての危険を予知する事は出来ません。

そのため、記載されている説明文は安全の全てを網羅したものではありません。

説明文にない運転・点検・整備を行う場合には、全て自分の責任において安全に対する必要な措置を取ってください

目 次

安全操作のための注意事項	2
本製品の使用目的	3
本製品の名称と仕様	4
安全標識の貼り付け位置	5
使用上・作業上の注意	6～7
使用方法	8～10
保守点検	11
異常の原因と処置	12～14
部品図・部品表	16～20
保証書	
安全操作説明確認カード	
安全操作説明確認（お客様控）	

安全標識の意味

	使用前に取り扱い説明書を読み理解してください。
	保護メガネを使用してください。
	耳栓を使用してください。
	防じんマスクを使用してください。
	ヘルメットを使用してください。
	手袋を使用してください。
	安全靴を使用してください。
	本体が高温になります。直接触らないでください。
	噴出した高圧油に直接触らないでください。
	火気を機械に近づけないでください。
	火気厳禁。燃料給油口付近に火を近づけると火災の危険があります。
	排気ガスに注意。室内や換気の悪い場所では使用しないでください。

安全操作のための注意事項

ここに記載されている注意事項を守らないと死亡を含む傷害事故や機械の破損事故をまねくおそれがあります。

——安全にご使用いただくために——



警告

こんな時は作業をしないでください

- ・過労・病気・薬物の影響、その他の理由により作業に集中できない時
- ・酒を飲んだ時
- ・手・足・腰等身体に痛みやケガのある時

【守らないと】

重大な事故をまねくおそれがあります。



注意

高温になるので直接さわらないでください

- ・本機を使用していると油温が上昇して、機械が熱くなります。素手で触れたり、肌に接触させないでください。
- ・マフラーや排気ガス出口付近は高温になります。素手で触れたり、肌に接触させないでください。

【守らないと】

火傷をするおそれがあります。



注意

傾斜した場所で使わない

- ・本機を傾斜した場所で使わないでください。

【守らないと】

重大な傷害や事故を起こすことがあります。



注意

機械を他の人に貸す時は

- ・取扱い方法をよく説明し、使用前に「取扱説明書」を必ず読み、理解してから使うように指導してください。

【守らないと】

説明不足により重大な傷害や機械の破損をまねくおそれがあります。



危険

火気を近づけないでください

- ・燃料の注入口に火気を近づけないでください。
- ・給油中はエンジンを停止してください。
- ・また給油時は、エンジンを停止し2分間以上冷却した後行ってください。
- ・燃料がこぼれたら、きれいにふき取って乾いたことを確認してから、始動してください。
- ・燃料補給時は周囲に火気がないことを確認してください。
- ・給油後、燃料のタンクキャップをしっかりと締めてください。

【守らないと】

爆発や火災により死亡事故をまねくおそれがあります。



警告

排気ガスに注意してください

- ・風通しのよいところで使用してください。
- ・室内で使用するときは充分換気してください。

【守らないと】

排気ガスによる中毒で、死亡事故にいたるおそれがあります。

**エンジン取扱説明書の注意事項も
よくお読みください。**

本製品の使用目的

1. 本製品は下記の当社油圧アタッチメントの動力源として使用してください。
2. 油圧アタッチメントによってはパワーオンデマンドを使用できない機種・型式があります。下記表に従ってください。

パワーオンデマンド設定	油圧アタッチメントの機種・型式
ON	(1) 油圧ハンドブレーカー：BH-23K・RK型、BH-22型、BH-20EV・EV型、 BH-18K・RK型、BH-16VS型、BH-11型、BH-7E型 BH-05B型(※機械の特性上、エンジン回転数がスローになりにくい仕様です) (2) 油圧ハンドブレーカー(水中仕様)：BH-05BU型、BH-11U型、BH-22U型 (3) 油圧杭打機 : KH-150-2型、KH-240V型、KH-800型 (4) 油圧ロックドリル : MHD-20B型
OFF OFFでも使用可能	(5) 油圧ハンドオーガー : OH-1、AYO1H型 (6) 油圧ハンドカッター : CH-型 全型式 (7) 油圧水中ポンプ : PH-300型 (8) 油圧コアカッター : DH190H-2型 (9) 油圧コンクリートチェーンソー : MDC-300型 (10) 油圧コンクリートクラッシャー : MCC-300型 (11) 油圧水中グラインダー : GH-180U型 (12) 油圧ロングリーチチェーンソー : PSH-190型、PSH-220型 (13) 油圧レシプロソー : HRS-400
ONでは絶対に使用不可	



(5)～(13)のアタッチメントはパワーオンデマンド“ON”の状態で使用しないでください。

初めは低回転ですが、負荷がかかった時にエンジン回転数の上昇と共に刃物等の回転数も急上昇し大変危険です。

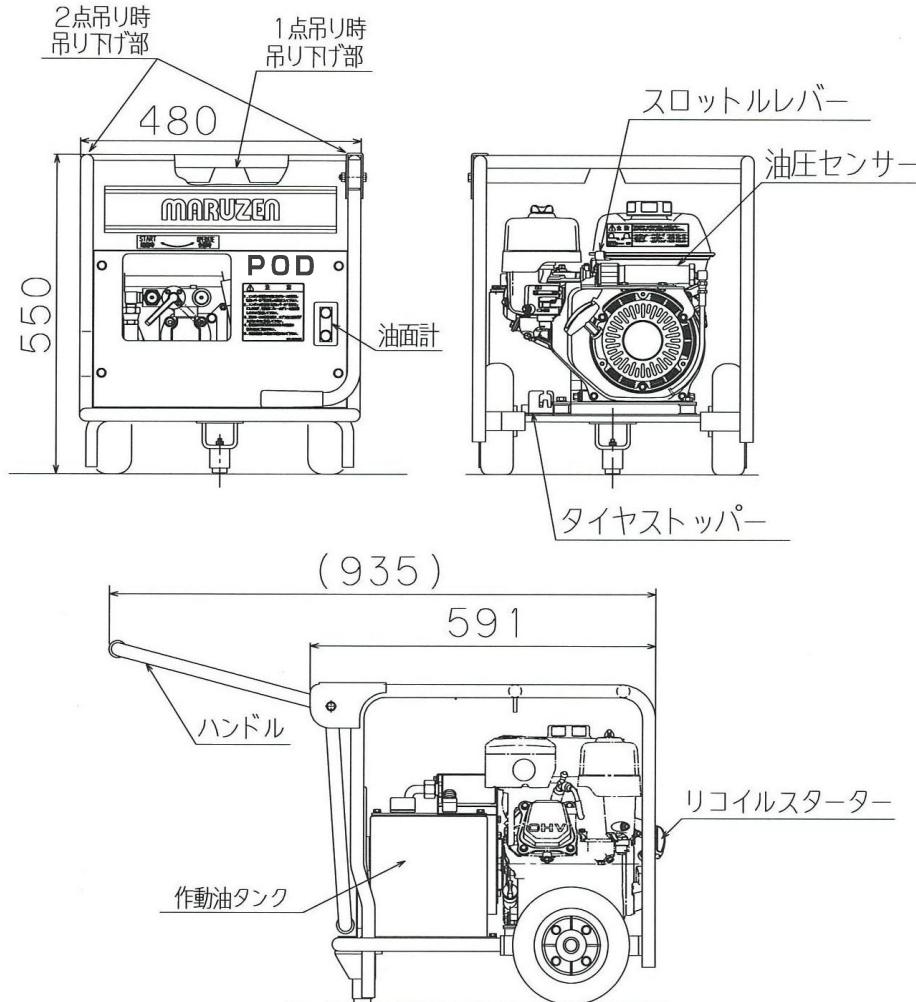
【守らないと】破損や反動による事故および重大な傷害をまねくおそれがあります。取り扱い方法をよく説明し、
使用前に[取扱説明書]を必ず読み理解してから使うよう指導してください。

2. 下記のような場所又は方法では使用しないでください。

- (1) 引火しやすいもの、燃えやすいものがある場所での使用
- (2) 傾斜した場所での使用
- (3) 地下、建物の内部等換気の悪い場所での使用
- (4) 標高1,000m以上の高地での使用（ご相談ください）
- (5) 使用目的以外の作業での使用
- (6) 他社油圧アタッチメント使用時はパワーオンデマンド設定を必ず『OFF』にして使用してください。

本製品の名称と仕様

外形寸法 : 591 mm × 480 mm × 550 mm

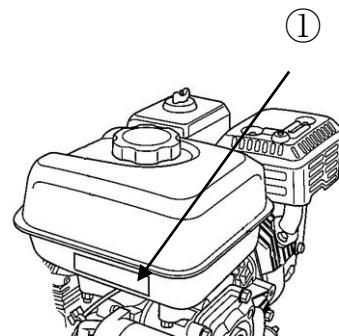


U-070-3-POD 型の仕様

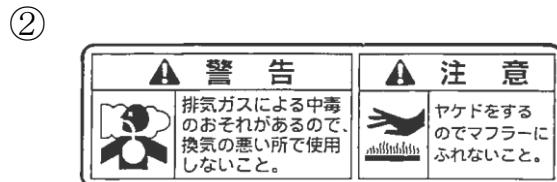
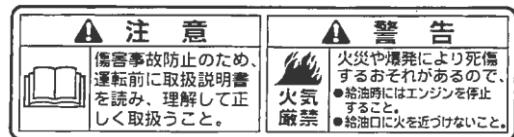
- 質量 : 46.5 kg
 最高圧力 : 11.7 MPa
 油流量 : 20.5 L/min
 エンジン : ホンダ GX200UT2
- ・最大出力 : 4.3 kW
 - ・燃料タンク容量 : 3.1 L
 - ・使用燃料 : 自動車用無鉛レギュラーガソリン
 - ・エンジンオイル容量 : 0.6 L
 - ・使用エンジンオイル : Honda 純正ウルトラU汎用(SAE10W-30)
または自動車用エンジンオイル SAE10W-30
(品質 API 分類 SE 級以上)
 - ・スパークプラグ : BPR6ES (NGK)
W20EPR-U (DENSO)
- エンジン始動方法 : リコイルスタート
 作動タンク容量 : 4 L
 推奨作動油 : ISO VG32 または VG46 耐摩耗性作動油
(VG32 の参考) : スーパーハイランド 32 (ENEOS)
シェルテラス S2 M32 (シェル)
コスモハイドロ AW32 (コスモ)
- 油圧取出し口 : 3/8in カプラ
 その他 : 強制空冷オイルクーラ装備
可倒式移動用ハンドル装備
タイヤストッパー装備
パワーインデマンド装備
- ※機能上アイドリング回転数は高めに
設定されています(2000 rpm ~ 2200 rpm)

安全標識の貼り付け位置

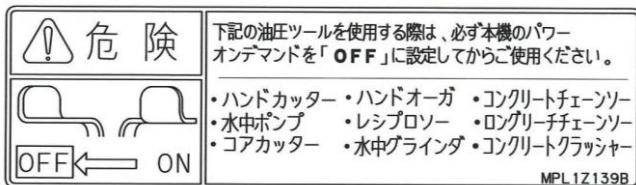
U-070-3-POD型



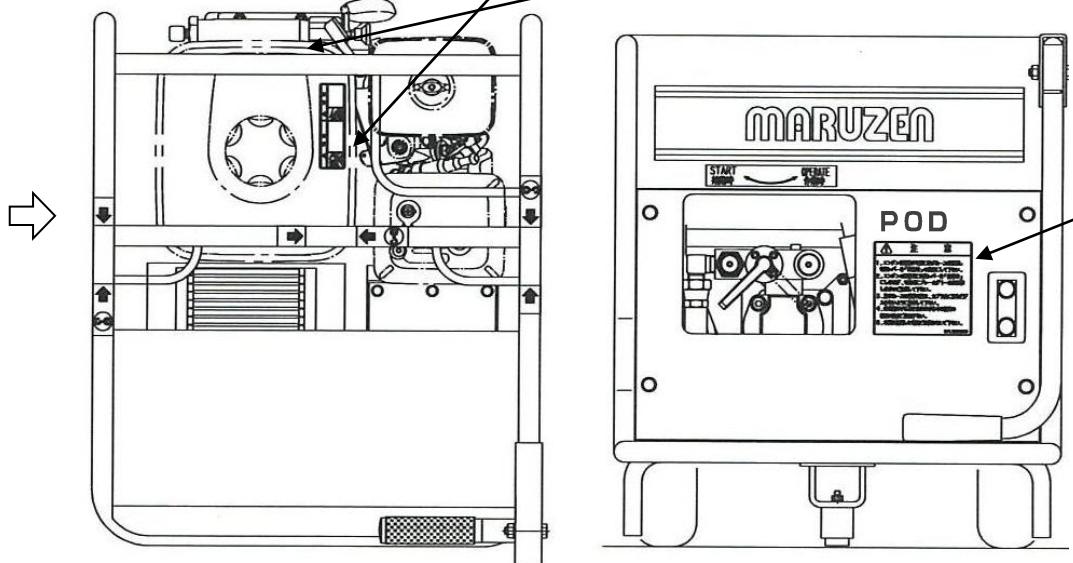
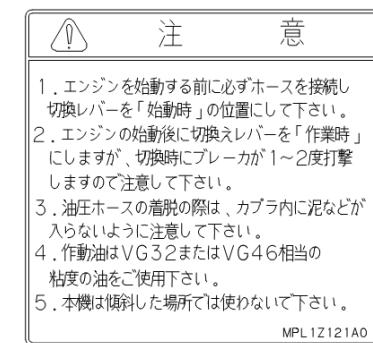
(⇒の方向から見る)



③



④



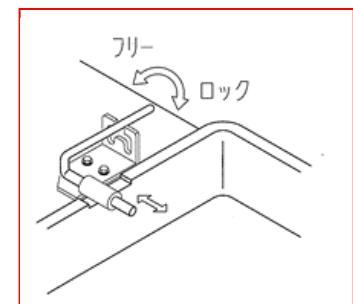
No.	部品番号	部品名
①	87520-ZH8-000	マークA (ホンダ)
②	87526-ZH8-000	マークB (ホンダ)
③	MPL1Z139B	ラベルDV (危険)
④	MPL1Z121A	ラベルDH (注意)

安全に作業していただくために、安全標識の貼り付け位置を示したものです。安全標識は汚損のないように保ってください。もしも、はがれたり汚損した場合は新しいものに貼り直してください。

安全標識の購入に際しては部品番号で当社または、当社の販売店にご注文ください。

使用上・作業上の注意 1 ユニット本体

1. 本機を傾斜した場所では使わないでください。
2. ホースの接続、切り離し時はごみ、ほこり、泥などが付着しないように十分に注意してください。
3. 空の延長ホースを接続後は作動油タンク内の作動油が減るので作動油量を確認してください。
4. 寒冷地で作動油温度が低い時は+10°Cくらいになるまで暖機運転をしてください。
5. マフラーの排気口の付近に燃えやすいものや引火するおそれのあるものがないことを確認してください。
6. エンジンに関する調整方法や、格納時の処置についてはエンジンの取扱説明書に従ってください。
7. 作業中にホースが破損し、油が噴出した時は速やかに油圧パワーユニットを停止させてください。
8. 油圧パワーユニットと油圧アタッチメントを切り離したときはカプラにキャップをかぶせてください。
9. ホースの接続や切り離しを行うと少量の作動油が漏れます。油で周囲を汚さないように気をつけてください。
また、始動時には作動油の量を点検し、不足している時は補充してください。
10. 本機を1ヶ月以上格納する時は、エンジンのガソリンを完全に抜取ってください。
(燃料タンク内のガソリンを抜取り、その後が経路内のガソリンがなくなつて停止するまでエンジンを動かしてください。また、全体のごみ、泥等を取り除き清掃してください。この際あまり強い水流での清掃は避けてください。)
11. 長期格納後、またはガス欠後のエンジン再始動時には燃料を満タンに注入してください。(注入量が少ないと燃料ホース内にエアが残り燃料が流れなくなるため、エンジンが始動困難になる可能性があります。)
12. 本機にはタイヤストッパーが備わっています。使用時や輸送時にタイヤが回転しないように固定できます。
エンジンの取扱説明書の詳細、点検項目もよくお読みください。

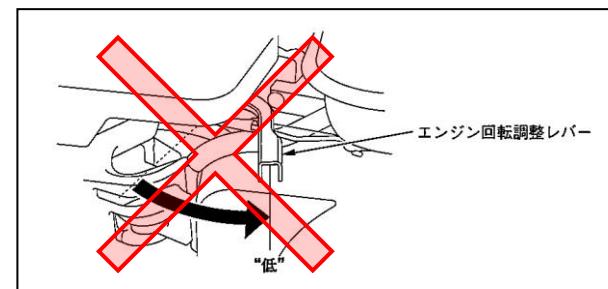
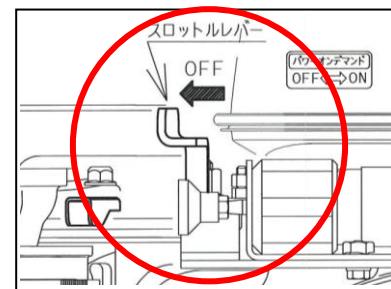
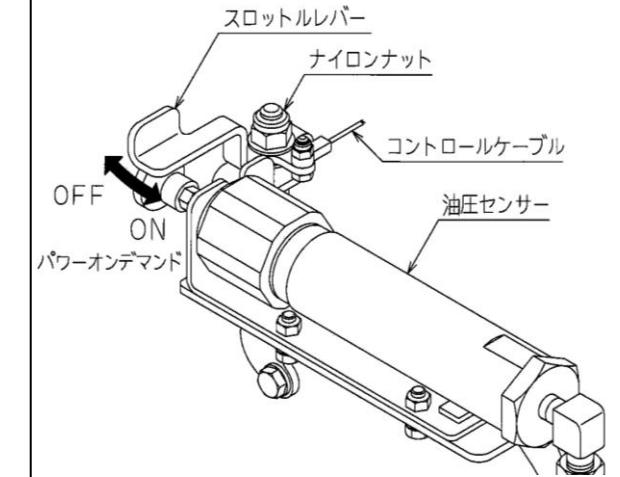


使用上・作業上の注意 2 パワーオンデマンド

パワーオンデマンドについて

アタッチメントの操作レバーを握り油圧回路の圧力が上昇すると、油圧センサーが反応してエンジン回転数が上昇します。また、操作レバーを離すと圧力が低下するためエンジン回転数が低下してスロー運転になります。待機時の騒音値の低下や燃料消費量の減少、作動油温度の異常上昇を抑える効果があります。

1. パワーオンデマンドは、作動油温度が低いとエンジン回転数が低下しないことがあります、油温の上昇と共に正常になります。
2. パワーオンデマンドは、作動油温度が高いとエンジン回転数が上昇しないことがあります。その際は、パワーオンデマンド機能を『OFF』にして使用してください。
3. ナイロンナットのゆるみにより、スロットルレバーが効かずパワーオンデマンドが『OFF』にできないことがあります。使用前にゆるみを必ず確認してください。
ゆるんでいる場合は、ナイロンナットを増し締めして、エンジンが高回転になってもエンジンの振動によって低回転にならないようにスロットルレバーの硬さを調節してください。
4. パワーオンデマンド装置が正常に作動しないときは本取扱説明書の p. 14 の『パワーオンデマンド装置の異常原因と処置』の項目をお読みください。
5. パワーオンデマンドを『OFF』にする場合は必ずスロットルレバーを用いて回転数を調節してください。
※エンジン回転調整レバーでのエンジン回転数の調節は行えません。



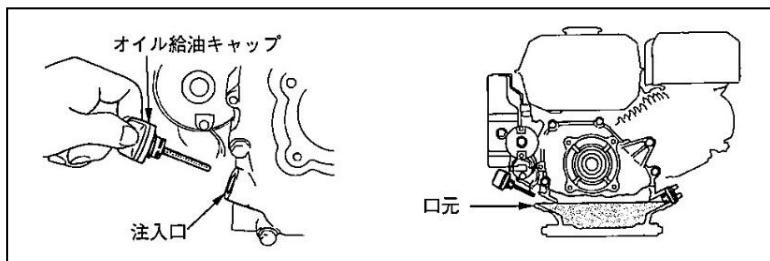
使用方法

1. ご使用の前に

(1) エンジンオイルの確認

エンジンを水平にしてオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか確認してください。

不足している時はHonda 純正ウルトラロ汎用 (SAE10W-30) またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30 オイルを口元まで補給してください。容量は0.6Lです。



オイルアラート機能付きです。

エンジンオイルが不足すると自動的に停止し、エンジンオイルが不足したままでは始動できません。

(2) 油圧作動油の確認

作動油タンクの油面計で、油面が確認できない時はISO VG32又はVG46の粘度の作動油を用意し、作動油タンク上面の注入口プラグをはずして油面が油面計の中央の高さくらいになるまで注入してください。容量は約4Lです。

【作動油：例】

スーパー・ハイランド32 (ENEOS)

シェル・テラス S2 M32 (シェル)

コスモハイドロ AW32 (コスモ)

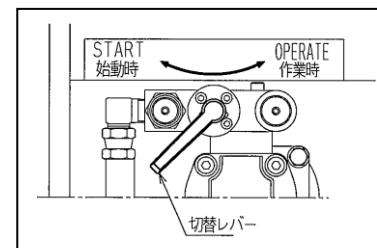
(3) 燃料の注入

エンジンの燃料タンクに自動車用普通ガソリンを注入してください。容量は約3.1Lです。燃料がこぼれたらきれいにふき取ってください。

2. エンジンの始動

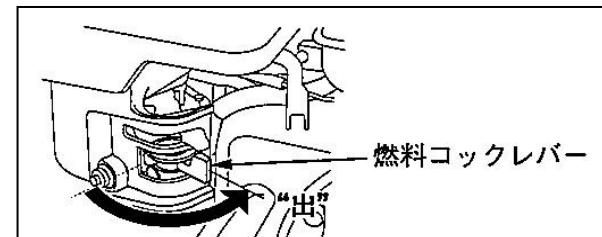
(1) エンジンの始動操作をする前にパワーユニットのホースを油圧アタッチメントのホースに接続してください。ホースを接続しない状態ではエンジンを始動しないでください。

また、切替レバーを必ず下図の位置になるように切り替えてください。

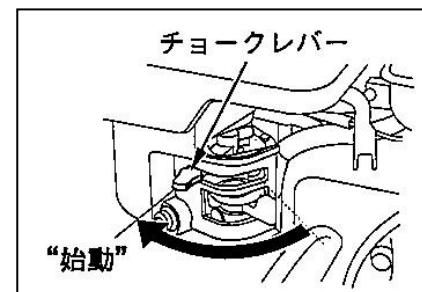


(2) 始動操作

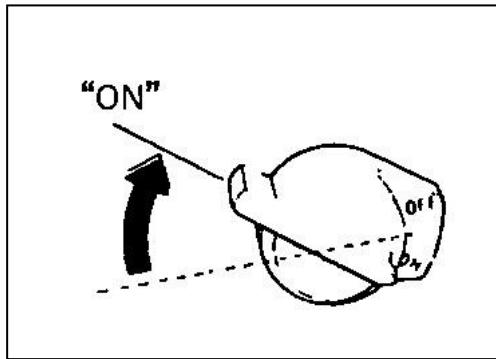
① 燃料コックレバー “出” の位置に合わせます。



② 寒い時やエンジンがかかりにくい時にはチョークレバーを“始動”的位置に合わせます。



③エンジンスイッチを“ON(運転)”の位置にします。

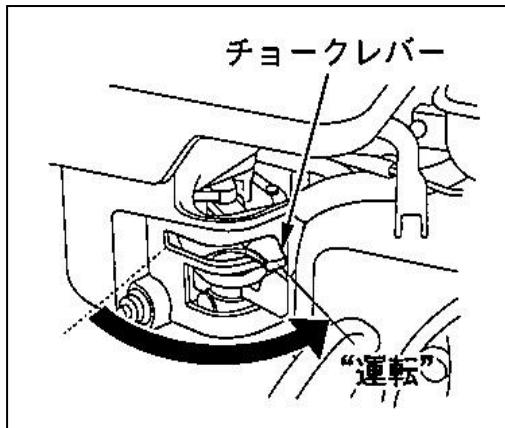


④始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。

次に矢印方向に強く引っ張ります。※右図参照

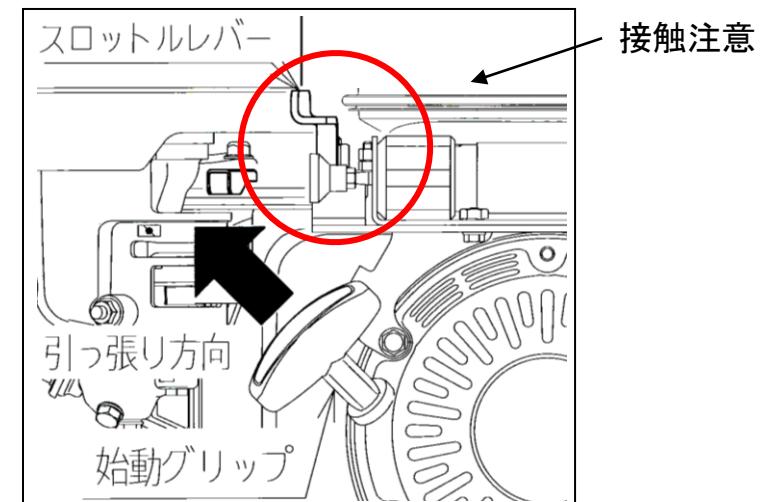
- ・始動グリップは引いたまま手を放さないで、静かに元に戻してください。
- ・運転中は始動グリップを引かないでください。

⑤チョークレバーを“始動”にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に“運転”的方向に戻します。



!**注意**

- ・始動グリップを引く際に、手やスターターロープを油圧シリンダーやスロットルレバーにぶつけないように注意してください。
怪我やスターターロープ、油圧センサー、スロットルレバーを損傷するおそれがあります。

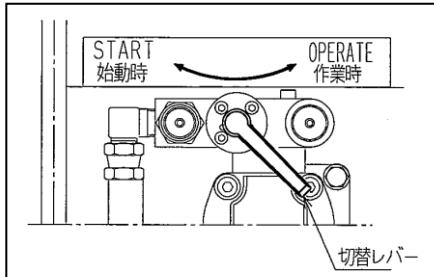
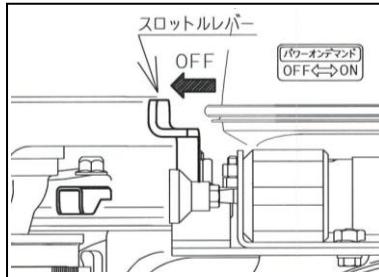


3. 運転、作業

(1) パワーオンデマンドを使用できないアタッチメントでの使用について (p. 3 参照)

スロットルレバーを左に回転させパワーオンデマンド機能を必ず『OFF』にしてください。『OFF』にするとエンジン回転数が最高回転で維持されます。

(2) 切替レバーを作動時の位置に合わせます。(右下図)



3. (1) 図

3. (2) 図

(3) パワーオンデマンドについて

操作レバーを握り油圧回路の圧力が上昇すると、油圧センサーが反応してエンジン回転数が上昇します。また、操作レバーを離すと圧力が低下するためエンジン回転数が低下してスロー運転になります。

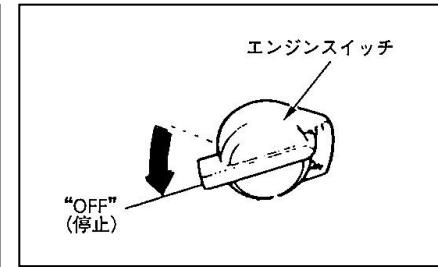
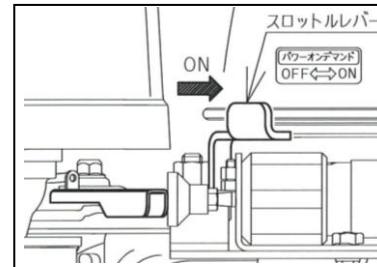
油圧回路の圧力を基準としているため、油温が低い時はエンジン回転数が低下しない時がありますが、油温の上昇と共に正常になります。

(4) 油圧アタッチメントを使用します。各油圧タッチメントの操作は各自の取扱説明書に従ってください。

4. 停止

(1) パワーオンデマンドを『OFF』、にしている場合は、『ON』に切り替えます。

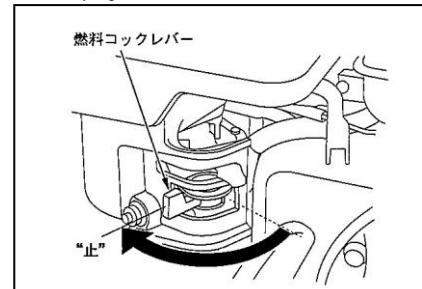
(2) エンジンスイッチを”OFF”(停止)の位置に回します。



4. (1) 図

4. (2) 図

(3) 燃料コックレバーを“止”の位置に合わせコックを閉じます。



注意

燃料コックを閉じておかないでください。運搬時の傾斜角度によっては燃料タンク内の燃料がクランクケースに流れ込むおそれがあります。使用後は必ず閉じてください。

(4) 油圧アタッチメント(ブレーカ等)のホースを切り離します。ホース先端のカプラを互いに接続しておきます。



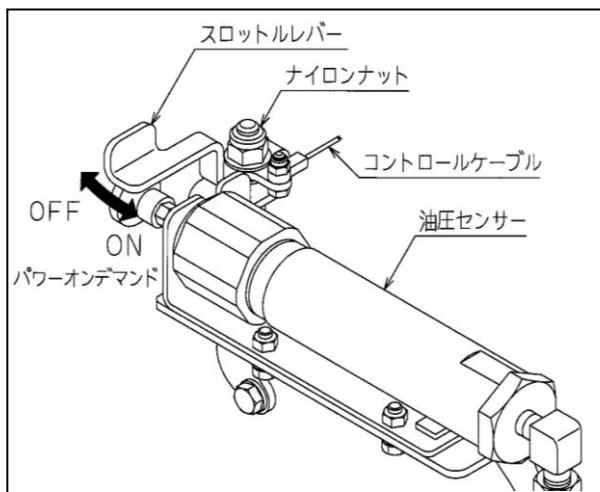
注意

作業により、油圧アタッチメント(ブレーカ等)ホース工具、油圧パワーユニットの各部が高温になっています。必ず手袋を着用してください。

保守点検

1. 日常点検

- (1) エンジンオイルの量は毎日始動前に点検してください。
- (2) 作動油の量は油面計の中間位の油面を保つよう、適時、作動油を補充してください。(作動油 ISO VG32 又は VG46)
- (3) エンジンのエアクリーナーエレメントの汚れを清掃してください。
- (4) 油圧ホースやポンプの付近に油漏れがないか点検し必要に応じてホース金具やボルトの増締めしてください。
- (5) エンジンを始動後、低速で運転し異常な振動や異常な音がないか点検してください。
作動油を補充してください。
(作動油 ISO VG32 又は VG46)
- (6) スロットルレバーを左に回転させた状態でエンジン回転数を最高回転に維持できることを確認してください。
最高回転を維持できない場合、ナイロンナットの増し締めを行いレバー硬さの調節を行ってください。



2. 定期点検

油圧パワーユニットを常に良好な状態に保つため、次の表に従って保守点検を必ず実施してください。

項目	時間	3ヶ月 50時間	6ヶ月 100時間	1年間 200時間
エンジンオイルの交換			○※	
エアクリーナーの清掃	○			
点火プラグの清掃	○			
ラジエータの清掃			○	
作動油の交換			○	
燃料ストレーナの清掃				○
サクションフィルタの清掃				○
リターンフィルタ交換				○
作動油タンクの清掃				○

※ 初回 20 時間 (1ヶ月)

- (1) 作動油はオイルタンクの底のドレン口から抜き取ります。作動油が白くにごっていたり、焦げ臭いようなにおいがついて変色している時は同じ銘柄の作動油と交換してください。
- (2) サクションフィルタはガソリンまたは洗油で洗浄します。
- (3) ラジエータは外側からエアで吹いてゴミ、ホコリを吹きとばします。
- (4) ブレーカー等との接続用のホースは全長にわたって点検し深傷やつぶれのために油漏れのおそれのあるものは交換してください

異常の原因と処置 1

ユニット本体

★印については当社または当社サービスセンターへ依頼してください

異常現象	主な原因	処置
1. エンジンが始動しない	1. 燃料の不足 2. 燃料ホース内にエアが残り、燃料が流れなくなっているためキャブレータまで届いていない(ガス欠、長期格納後) 3. 点火プラグの不良 4. キャブレータの目づまり 5. 燃料コックが閉になっている 6. チョーク過多によるかぶり 7. 点火系統の不良 8. 燃料フィルタの目づまり 9. エンジンスイッチがOFF(停止)側になっている 10. エンジンスイッチの損傷またはコードの外れ、損傷 11. エアクリーナーの目づまり 12. エンジンオイルの不足(オイルアラート機能)	1. 燃料の注入 2. 燃料を満タンに注入するまたは燃料コックのカップを外してエアを抜く 3. 清掃または交換 4. 分解清掃する 5. 燃料コックを開にする 6. 燃料コックを閉じて、数回スタータロープを引く ★7. 点検、修理 8. 清掃する 9. ON(運転)側にする ★10. 点検または交換する 11. 清掃する 12. エンジンオイルを補給
2. スターターが重い	1. ホースが接続されていない 2. エンジンオイル不足による焼きつき 3. カプラの故障 4. 切替レバーが“始動時”位置になっていない	1. 油圧アタッチメントと接続する ★2. 分解、修理 3. 点検し、不良の場合は交換する 4. レバーを切替える
3. エンジン回転が上がらない	1. チョークを戻していない 2. 燃料不足 3. 燃料フィルタの目づまり 4. エアクリーナーの目づまり	1. チョークを戻す 2. 燃料注入 3. 清掃する 4. 清掃する

異常現象	主な原因	処置
4. 油圧アタッチメントが作動しない、または力が出ない	1. 作動油の不足 2. 作動油の劣化 3. リリーフ弁圧力の低下 4. ポンプの摩耗による能力の低下 5. カプラの故障 6. 切替レバーが“始動時”になっている	1. 作動油を補充する 2. 作動油を交換する ★3. リリーフ弁圧力を調整する ★4. ポンプを交換する 5. 交換する 6. 切替レバーを“作業時”にする
5. 油温が異常に上がる(80°C以上)	1. ラジエータの目づまり 2. シロッコファンの目づまり	1. 清掃する 2. 清掃する
6. 配管からの油漏れ	1. ホース、金具のゆるみ 2. ホースの破損	1. 増し締めする 2. 交換する
7. エンジンスイッチを“OFF”にしてもエンジンが停止しない	1. スイッチコード、アース回路の断線、接触不良	★1. 点検、修理
8. エンジンが停止する	1. 過負荷 (リリーフバルブが作動している状態での連続使用) 2. エンジンオイルの不足(オイルアラート機能)	1. 負荷の軽減、連続負荷を止める 2. エンジンオイルを補給する

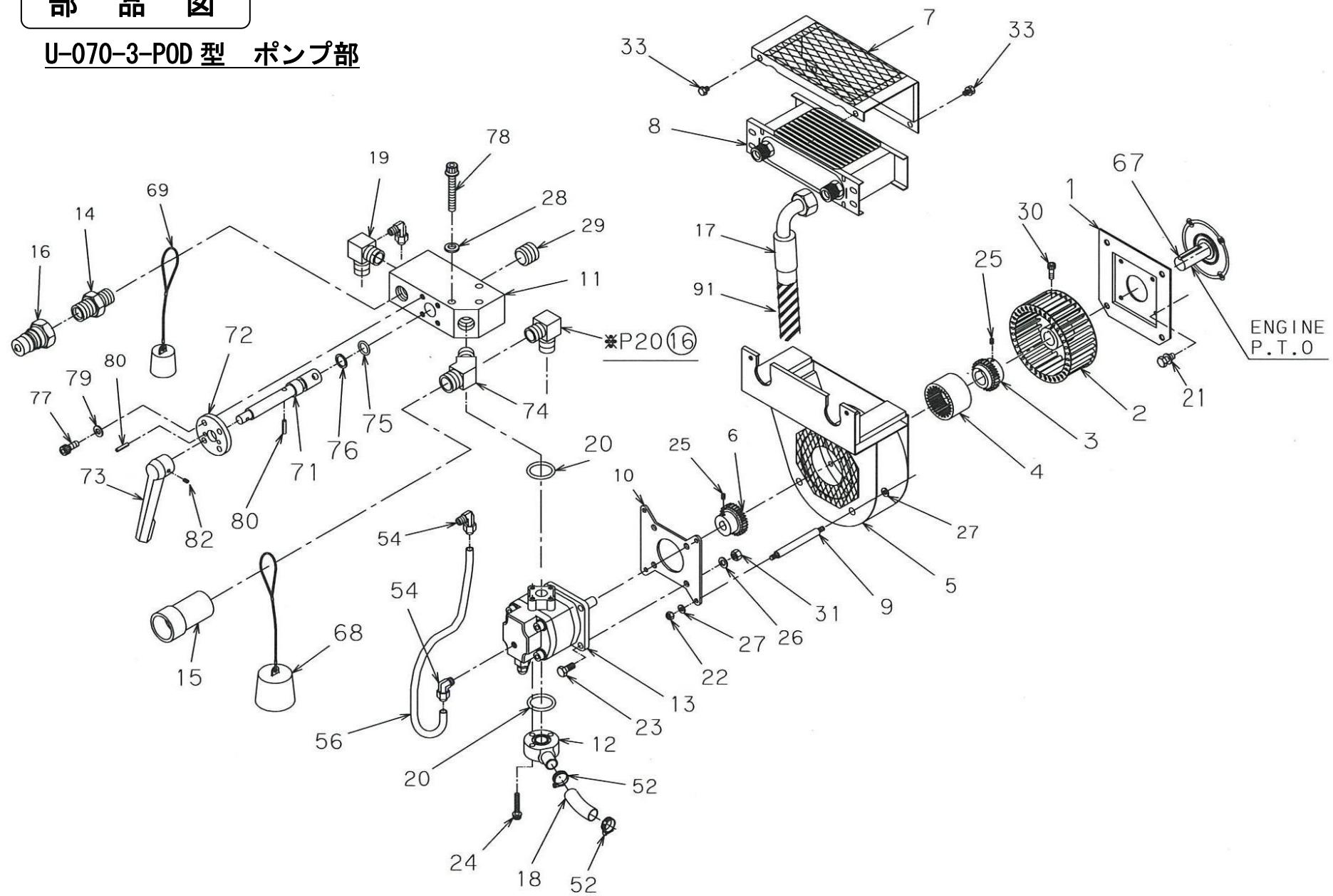
異常の原因と処置 2 パワーオンデマンド

異常現象	主な原因	処置
1. エンジン回転数が上がらない	1. 油圧回路の抵抗が小さい(短い延長ホースの使用) 2. 作動油温度が高い(90°C以上)	1. 5~10m の延長ホースを使用する 2. パワーオンデマンド機能を『OFF』にして使用する
2. エンジン回転数がスローにならない	1. 作動油温度が低い 2. 油圧回路の抵抗が大きい(①規定以上の油圧ホースの使用、②カプラの不具合等) 3. BH-05Bの使用	1. 油温を上げる 2. ①5~10m の延長ホースを使用する ②点検、交換 4. そのまま使用
3. パワーオンデマンド機能が『OFF』にできない	1. スロットルレバーがゆるんでいる 2. コントロールケーブルの断線	1. ナットの締付 ★2. 交換する
4. 本機カバー部分からの多量の油漏れ。	1. Oリングの摩耗 2. ピストンの傷や鎔	★1. 交換する ★2. 交換する

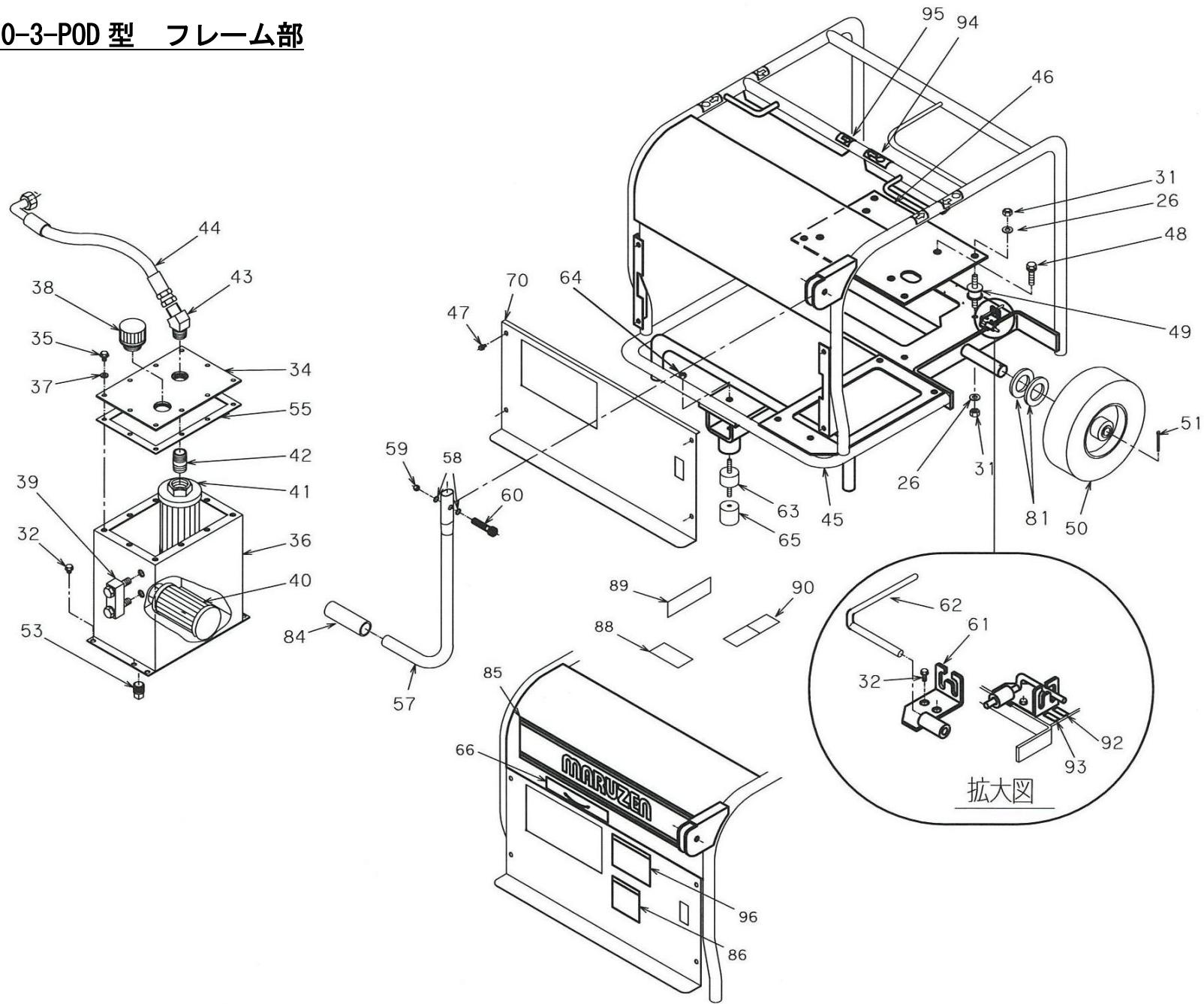
※使用により、油圧センサー部カバーに少量の油が付着することがありますがこれは異常ではありません。

部品図

U-070-3-POD 型 ポンプ部



U-070-3-POD型 フレーム部



部品表

U-070-3-POD型 フレーム部、ポンプ部

No.	部品番号	部品名称	数量	No.	部品番号	部品名称	数量
1	MU02E019A	取付板(A)	1	24	BH-6×35(2P)	ボルト	3
2	CAB050050020BY(H)	ファン(T)	1	25	SH-4×8	トメネジ(クロメート)	2
3	MU08Z052A	カップリング(E)	1	26	WS-8	ザガネ	12
4	MU08Z054A	ハブ	1	27	WS-6	ザガネ	8
5	MU08Z064A	ファンケース(N) Assy	1	28	MU02Z092A	ザガネ	3
6	MU08Z053A	カップリング(P)	1	29	BPH1-PT3/8	プラグ	1
7	MU08Z051A	ラジエータカバー Assy	1	30	BH-4×8	ボルト(クロメート)	1
8	MU08Z007A	ラジエータ	1	31	N1-8	ナット	12
9	MU02E008B	スタッドボルト	4	32	B-6×15(2P)	ボルト	6
10	MU04Z005A	ポンプフランジ	1	33	B-6×10(2P)	ボルト	4
11	MU08Z018A	バルブボディ(L)	1	34	MU08Z006A	フタ	1
12	MU04Z006A	サクションフランジ	1	35	BG-6×15	ボルト	10
13	403-40099	ポンプ	1	36	MU08Y002A	タンク	1
14	AJ-2083-06	アダプタ	1	37	1240-404	Φ6ワッシャ	10
15	QC-03F	カプラ(メス)	1	38	BM-3/4	タンクキャップ	1
16	QC-03M	カプラ(オス)	1	39	KLA-40A-C	オイルゲージ(M10フロート赤) 15 N·m	1
17	01126-8--52--	低圧ホース ⑧側 40 N·m ⑯側 60 N·m	1	40	CT-04W	サクションフィルタ	1
18	MU08Z019A	サクションホース	1	41	RC-04-30-15	リターンフィルタ	1
19	MU08Z009A	エルボ	1	42	LJ-04BN	バレルニップル	1
20	OP-22	Oリング	2	43	AJ-1036-08	エルボ	1
21	BH-8×20(2P)	ボルト	4	44	01126-8--31--	低圧ホース ⑧側 40 N·m ⑯側 60 N·m	1
22	N1-6	ナット	4	45	MU17X001A	フレーム	1
23	B-8×25	ボルト	4	46	MU08Z044A	エンジンベース	1

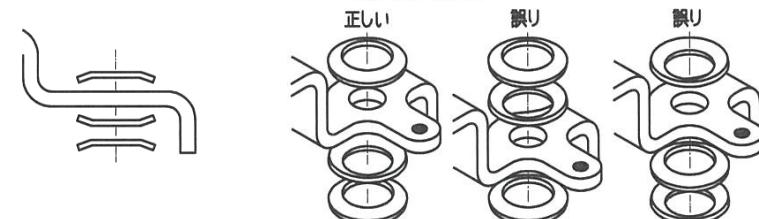
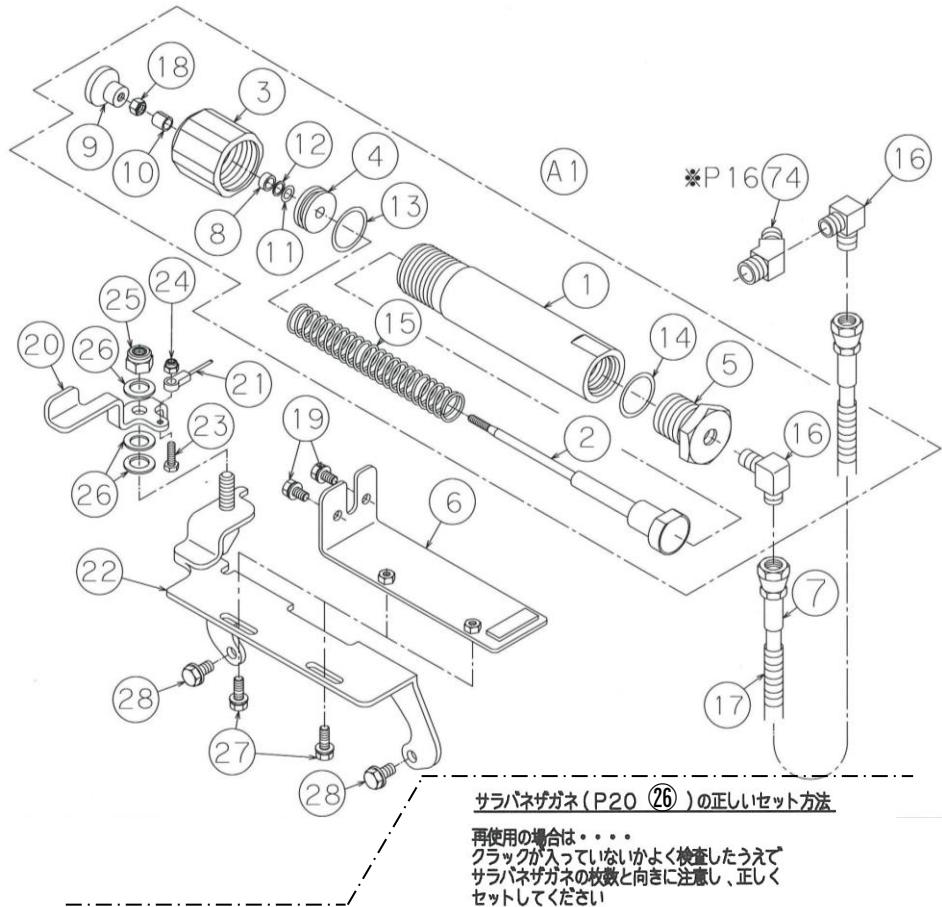
No.	部品番号	部品名称	数量	No.	部品番号	部品名称 ②7	数量
47	B-8×20(3P)	ボルト	4	72	MU08Z017A	プレート(L)	1
48	B-8×35(3P)	ボルト	4	73	MU08Z030A	フィクスドレバー	1
49	KA-30	防振ゴム	4	74	MU08Z021A	エルボ追加工	1
50	G-200B	タイヤ	2	75	OP-10A(1A)	Oリング	1
51	PS-3.2×30	ピン	2	76	OBP-10A	バックアップリング	1
52	SS-8	ホースバンド	2	77	BH-5×15	ボルト	4
53	BPQ-PT3/8	プラグ	1	78	BH-6×45(2P)	ボルト	3
54	L4N8×6-PT1/4	エルボ	2	79	WS-5	ザガネ	4
55	MU08Z005A	タンクパッキン	1	80	PR-4×14	ピン	3
56	N5-4-8×6-0.250 KURO	チューブ	1	81	WP-20	ザガネ	4
57	MU17Z005A	ハンドル	1	82	SH-5×6(TOGARISAKI)	トメネジ	1
58	WP-8	ザガネ	3	83	—	—	—
59	NN1-8	ナイロンナット	1	84	C-57	ライングリップ	1
60	BH-8×40	ボルト	1	85	MU08Z032A	マルゼンシール	1
61	MU17Z016A	ガイドステー	1	86	MPL1Z121A	ラベルDH(注意)	1
62	MU17Z017A	レバー	1	87	—	—	—
63	KA-25	防振ゴム	1	88	1250-449	ラベル(ガソリン)	1
64	NN-6	ナット	1	89	87520-ZH8-000	マークA(ホンダ)	1
65	MU08Z058A	前足 1303B	1	90	87526-ZH8-000	マークB(ホンダ)	1
66	MU08Z016A	操作ラベル	1	91	KS-15B L=250mm	スパイラルチューブ	1
67	90741-883-810	キー	1	92	MU17Z007A	タイヤストップラベル(フリー)	1
68	CC-03F	カプラキャップ(メス)	1	93	MU17Z008A	タイヤストップラベル(ロック)	1
69	CC-03M	カプラキャップ(オス)	1	94	MU17Z013A	吊り位置ラベル(R)	3
70	MU17Z002A	前カバー	1	95	MU17Z015A	吊り位置ラベル(L)	3
71	MU08Z015B	ロータリー(L)	1	96	MU18Z022A	型式ラベル	1

スリーボンド製 嫌気性封着剤 1303B

部品表

U-070-3-POD型 油圧センサー部

No.	部品番号	部品名称	数量
1	MU18Y001A	チューブ	1
2	MU18Y002A	ピストン	1
3	MU18Z003A	カバー 35 N·m	1
4	MU18Z004A	ブッシュ	1
5	MU18Z005A	M24 プラグ 35 N·m	1
6	MU18Z006A	シリンダーブラケット	1
7	MU18Z010A	POD ホース	1
8	MU18Z011A	カラー	1
9	MU18Z012A	ヘッド	1
10	DBB0608	DU ブッシュ	1
11	MU18Z019A	O リング	1
12	OBP-6	バックアップリング	1
13	OP-20	O リング	1
14	OP-22	O リング	1
15	MU18Z020A	スプリング	1
16	190-2-2	アダプタ	2
17	φ6 L=800	スパイラルチューブ	1
18	N1-5	ナット	1
19	B-5×10(3P)	ボルト	2
20	MU18Z008A	スロットルレバー	1
21	MU18Z009A	コントロールケーブル	1
22	MU18Y014A	エンジンブラケット Assy	1
23	B-4×14	ボルト	1
24	NN-4	ナイロンナット	1
25	NN-8	ナイロンナット	1
26	WF-8(1L)	サラバネザガネ	3
27	B-5×15(3P)	ボルト	2
28	BG-6×20	ボルト 5.1 N·m 1342J	2
A1	油圧センサーAssy	MU18Y018A	1
A2	シールキット Assy	MU18Z021A	



構成部品 No.

1,2,3,4,5,8,9,10,11,12,13,14,15,16 (1),18

11,12,13,14